



統合医療学会市民公開講座への参加を呼び掛ける大会長の中屋豊教授(左)と、座長の寺尾純二教授(右)＝徳島市蔵本町の徳島大学

徳島大学大学院ヘルス
バイオサイエンス研究部

中屋 豊教授
寺尾純二教授

「統合医療」の現状を聞く

12日・市民
公開講座

西洋医学に漢方などの伝統療法を組み合わせ、最善の医療を目指す統合医療。増大する医療費の削減にも効果があると、注目され始めている。12日、第14回日本統合医療学会の市民公開講座が、徳島大学大塚講堂(徳島市蔵本町)で開催される。大会長で同大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部の中屋豊教授と、座長を務める寺尾純二教授に、統合医療の現状を聞いた。

統合医療に用いる代替療 幅広い。
法には、漢方や鍼灸のほか、音楽療法、運動、健康食品などがある。今回の学会で発表されるテーマも、蒸餾(美術)療法、ヨガ、氣功、太極拳、体操、ホメオパシー、カイロプラクティック、オゾン療法などと統合医療の目的」と話す。

特に、健康食品として宣伝されている中には、国の基準を満たす特定保健用食品になっていないものが多い。寺尾教授は「有効なものもあるが、高額なだけで効果のないものもあり、有効性や安全性を確認しないといけない。体によい適量を検証することも大切で、取りすぎると危険な場合もある」と警鐘を鳴らす。

例えば、大豆イソフラボン

安全・有効性を確認

医療費抑制の切り札に

ンは、骨粗しょう症や更年期障害の予防に効果があると注目されているが、過剰に摂取すると女性ホルモンのバランスを崩す可能性があるという。

手間をかけて代替療法の有効性を確認し、こうした統合医療を推進しようとする背景には、医療費の高騰がある。2008年度の国民医療費(厚生労働省調べ)は34兆8千億円。毎年増加しており、10年前に比べて17・6%の増。

その医療費抑制策の切り札と期待されているのが統合医療だ。代替療法の中から、運動や食べ物などの有効なものを見つけ、病気を予防する方が考えられている。

また、体の機能だけでは、終末期のがん患者に対する緩和ケアに音楽療法を取り入れている病院もあるなど、精神面のケアとしても注目されている。

米国では10年以上前から、健康食品など代替療法の有効性を確認する研究が進められている。日本では、健康食品などの上手なつきあひ方。健康科学大学の蒲原聖司教授、宮城大学の津志田隆二教授、愛知学院大学の澤村修彦教授、名古屋文理大学の清水俊雄教授が話す。参加無料。

市民公開講座は12日午後3時45分から。第1部は「徳島県の特長ある取り組み」。徳島大学徳島病院臨床・研究開発センターの松久宗英特任教授が「糖尿病メ